

## 連合神奈川結成 30 年にあたってのメッセージ

### ○ 結成 30 年にあたって

連合神奈川は、1990 年 3 月「ゆとり・豊かさ・社会的公正」の実現を目指し、官民統一のもと「顔合わせ・心合わせ・力合わせ」を合言葉にスタートし、3 月 11 日をもって結成 30 年を迎えることができました。

結成から今日に至るまで、ご支援いただいた構成組織や、先輩諸兄の皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

連合神奈川は、この間、働く者・生活者の立場に立った政策実現を軸に、県下最大のローカルセンターとしての役割と責任を果たしてきました。しかし、運動領域が拡大する一方で組織人員は減少し、労働運動全体の影響力が低下する大きな転換期の中、同時に人口減少と超少子高齢化社会を迎えています。

いわば、労働運動の未来を左右する大きな変化に直面しています。だからこそ、働く者が連携して暮らしを守り、社会の不条理に立ち向かう労働運動の再構築が必要です。

結成 30 年をひとつの区切りに、これまでの価値観や積み上げてきた運動と政策を継承しつつ、すべての働く仲間と労働組合をつなぎます。多様なステークホルダーと対話・協働を進め、広く県民から共感を得られ、地域に広がりのある運動をつくりあげるため、連合ビジョン「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

### ○ 2020 春闘について

2020 春季生活闘争は、分配構造の転換につなげる賃上げを掲げつつ「経済の自律的成長」と「社会の持続性」を実現する取り組みにしていかなければなりません。日本経済は、緩やかな回復基調が続いていると言われていますが、働く者が、そのことを実感するまでには至っていません。

このような状況にあっても、これまでの「賃上げ春闘」を継続的に取り組み、同時に様々な格差の是正に取り組んで一定の成果を出してきました。

労使を取り巻く情勢として、新型コロナウイルスの感染拡大が、実態経済にも大きな影響をおよぼし始めています。喫緊の課題として、健康と安全を求める社会的な役割を踏まえた対応が必要と認識を持ちつつも、これまでの賃上げの流れを止めることがないよう、労使で職場の課題に真摯に向き合い、社会全体を豊かにすることが、春季生活闘争の役割であり、私たちに課せられた使命でもあります。

2020 春闘もいよいよヤマ場を迎えますが、すべての労働者への賃上げを軸とした「人への投資」を積極的に求め、職場の、企業の、そして日本の未来を創るとの断固たる決意をもって、組織の総力を結集し、最後の最後まで、ともに闘おう。

2020 年 3 月 11 日

連 合 神 奈 川

会 長 吉 坂 義 正